

# 福田寺だより

発行

飯田山 福田寺

住職 橋本尚信

 神奈川県小田原市飯田岡二五七  
 電話 0465(36)2755

## 「真言宗立教開宗一千二百年」慶讃大法会

### 令和五年十月八日～十月十四日奉修

弘仁十四年（八二三年）宗祖弘法大師は御年五十歳の砌、平安京遷都に際し桓武天皇御創建の官寺でありました東寺を時の帝嵯峨天皇より賜り、寺名を教王護国寺とされ、真言密教の根本道場として茲に真言宗をお開きになりました。爾来、その法灯は連綿として絶えることなく今日に至っております。

宗祖弘法大師空海立教開宗の理念でもあります「鎮護国家・濟世利民」は千二百年が経過しました今日なお続くお大師様の願いであり、本大法会のスローガンであります『尽きぬ願いに祈りは続く』は、お大師様が高山野山で修された万灯万華会でお読みになられました願文の一節『衆生尽

き 虚空尽き 涅槃尽きなば 我が願いも尽きなん』からきております。

既に過ぎ去りました千二百年という歴史の長く膨大な時期に想いを巡らせます時、その時代時代の社会情勢や経済状況、また時には天災や人心の乱れに翻弄され、栄枯盛衰・離合集散を繰り返しながら有為転変と世の中は移り変わります中にも、唯一変わることなく今日もお生き繋がれてきておりますものは、宗祖弘法大師の御誓願とお大師様への篤い信仰の念であります。

東寺真言宗は、宗祖弘法大師立教開宗一千二百年に当たります令和五年に慶讃大法会を修する事になりました。

この記念大法会は今を生きる真言宗僧侶の責務として鎮護国家と濟世利民を祈り宗祖弘法大師への報恩謝徳をはじめ千二百年に亘り法灯を継承してこられた先師先徳とお支え下さってきた御信者様方のため、加えて世界平和と全世界の人々の安寧と幸福、そして更なる一千三百年のために祈りを捧げていくものであります。

令和五年十月八日～十月十四日の一週間に亘り総本山東寺において様々な法要やイベントが執行されます。

福田寺と致しましては、本山東寺並びに所屬宗派東寺真言宗の百年に一度の慶事に対して、様々な形で参加をし協力をしたいと考えております。

具体的には年が明けましてから随時お知らせすることになるうかと存じます。

コロナ禍で三年間様々な行事が執行されませんでした。本大法会が滞りなく修行されたならば、人類がコロナに打ち勝った証にもなります。夢魔成満を心より祈念するところでもあります。

# コロナウイルスの教訓

## 人間の本質を生きる大切さ

令和二年〜令和四年の三年間はコロナ時代の三年間と言ってよいほどコロナウイルスによって、人間社会が本来の生活とかけ離れた生活を強いられた三年間でした。未だ第八派到来で収束には至っていませんが、人々の生活は徐々に元の生活に戻りつつあります。

コロナが人々の本来の生活から奪ったものとは何でしょう。何よりも大きな影響を与えたものは、三密（密集、密接、密閉）を避ける生活だと思います。オンラインの普及、スマホでの情報交換、ネットでの売買、デリバリー注文等々、対面社会が消えた事です。勿論これらの普及は人々にとって、便利で煩わしさもなく益々普及発展していくものと思われれます。また、人によっては対面しないで済む生活が心地よい事もあると思います。ネットで知り合った

カップルが四割を超える、とか三歳四歳の子がタブレットを操っているのを見ると、これからの人間社会はITを駆使してITに埋もれた社会になることは必定であります。対面社会からどんどん離れた社会環境となるでしょう。もはや対面云々などと言っているのは化石人間と言われても仕方ないのかもしれませんが。

しかし人間の本質は変わるものではないか。かつて電気の発明により人間生活は大変革をきたしました。生活環境は変わりましたが人間社会が変わることはありませんでした。人間社会は人と人が関わりをもつてはじめて成り立つものだと思います。人間の本質はここにあるのではないのでしょうか。対面社会は人間の本質が求めるものだと思います。人間の本質が求める対面社会は決して無くなるものでもなく、おろそか

にするものでもありません。コロナ生活により、私達は三密がいかに大事なものであるかを体感しました。人との接触は確かに煩わしいものでもあります。しかし、対面のない生活が如何に虚しいものかも強く感じました。少々の煩わしさと虚しさ、どちらを取りますか？。少々の煩わしさがあるからこそ人間の本質を生きていると感じられるのではないのでしょうか。

## 住職在任50年を 振り返って

住職は十月十九日総本山東寺に於いて、住職在任五十年の表彰を親授されました。福田寺住職を拝命してから五十年が経過しました。

先代真栄住職は昭和四十三年三月に五十七歳で遷化しました。住職が十九歳、高野山へ上って一年経った時でした。その後住職は高野山での生活を続け、全ての修行を終えて帰って来たのは昭和四十七年二十四歳の時であります。その年の五月に住

職拝命、九月に晋山式を執行致しました。お稚児さんも大勢出て頂き晴れやかな中に住職就任をすることが出来ました。あれから五十年、その時お稚児さんで出て頂いた子も、そろそろ還暦を迎える頃です。

住職五十年の間で一番の思い出は何と言っても本堂建設に関わるものです。平成二年の落慶式は生涯忘れることの出来ない宝物であります。事業としてはその後、墓地の増設、納骨堂の新設等を行い檀信徒の数は晋山当初より大幅に増えました。教化面では寺だよりの発行、月一回のお経を読む会、掲示板での文書伝道、写経会等を実施致しました。

行事としては、年毎に施餓鬼会、護摩供養会、お盆供養会、花祭り会等時に従って行って参りました。特にお盆の棚経で全檀家さんを回っていた頃は、各檀家さんと密接にお話出来楽しい思い出となっています。

三代に亘ってお付き合いの檀家さんもあり五十年の長さを感じますが一瞬の夢であったような気がします。

## 写経再開のお知らせ

令和二年にスタートした「写経会」が新型コロナウイルス感染症予防のため数回で中止となり三年が過ぎようとしています。未だ完全に収束していませんが、感染対策をした上で再開をしたいと思えます。

写経の功德は「お経」を書写するところにあります。「お経」は仏様の教えが説かれているので、読み書きすることによりお経の功德が自然に染み込んでくると言われます。無心に読み書きすることが大切であることの由縁です。上手に書く必要もありませんし意味が分からなくても良いのです。ただひたすら無心で写経することが大切です。精神統一することにより身心の安定を保つこともできます。

令和五年三月二十一日から再スタート致しますので、前回申し込まれた方以外で、新たに参加希望の方は一月末日までにお申し込み下さい。参加申込者全員に二月中に詳細をご案内致します。

## ◆お願い◆

令和二、四年は、新型コロナウイルス感染症の影響でご参詣の制限もあり、檀信徒の皆様には諸々ご自由をおかけ致しました。特に維持管理費の納入につきましては、お気を煩わせました。未納の方は暮れのお参り時にご持参下さい。

## 駐車場について

駐車場整備により駐車スペースは多くなりましたが、施餓鬼や盆の合同供養、護摩の際などは身体の不自由な方にご配慮頂きますようお願い申し上げます。またその際は詰め込み駐車になりますこと、ご理解下さい。



# 護摩供養会



(申込み受付中)

恒例の新年厄除け護摩を二月八日の午後三時より修行致します。昨年、一昨年と新型コロナウイルス感染拡大防止の為、檀信徒の皆様には御参拝を控えて頂きましたが、令和五年度は感染対策をした上でご参加頂ける形での実施を予定致しておりますので、どうぞ多くの方のお申込みをお待ちしております。

祈祷料：……三千元

祈祷内容：厄難消除(厄除け)、  
身体健全、病魔退散、家内安全、  
交通安全、商売繁盛、業運繁栄、  
学業成就、合格祈願、安産祈願、  
子授け祈願、その他…

申込み：一月末日まで、電話可

電話 0465(36) 2755  
FAX 0465(37) 6688

## 令和五年度厄年



男性(大厄)

前厄 昭和五十八年生まれ

本厄 昭和五十七年生まれ

後厄 昭和五十六年生まれ

(厄) 平成十一年、昭和三十三年生まれ

十八年生まれ

女性(大厄)

前厄 平成四年生まれ

本厄 平成三年生まれ

後厄 平成二年生まれ

(厄) 平成十七年、昭和六十二年生まれ

## 仏教相談

「誰でも気軽にどうぞ」  
勿論檀家さん以外の方でも仏事に  
関して、どうしたらよいのか？  
どんな些細なことでもご相談下さ  
い。

電話 0465(36)2755  
住職携帯 09030450064

## 元旦祈願

除夜の鐘とともに、本堂の扉を開けておきます。

午前0時より1時まで、住職により新年のご祈祷が修法されます。ご自由に参加ください。

## 暮れのお参り



通常通りお参り下さい。但し出来るだけ密を避けるため日にちに余裕をもってお参り下さい。

古い護摩札やお守りなどは、暮れのお参りの時に、本堂入り口に用意された納め場所に納めて下さい。特に大きなものや、燃えないものは連絡ください。

## 年回のお知らせ

来年度の年忌(年回)法要の張り紙を本堂に掲げておきますので暮れのお参りのときに自分の家の年忌を確認して下さい。

年忌に相当している場合、法要の日取りを早めに連絡して下さい。